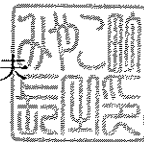


20 み建第 561 号

平成 20 年 10 月 14 日

国土交通省道路局長 殿

みやこ町長 白石 春夫



今後の道路行政についての意見・提案について

このことについて、別紙のとおり報告いたします。

交通インフラ整備は、国民生活の利便性を増すだけでなく、地域経済、文化の発展に欠かせないものです。

近年、都市部と地方の地域間格差が社会問題になっています。たとえば、農山村等の過疎地域では高齢化の進行で車の運転のできないかたが多く、唯一の公共交通機関の廃止や撤退により不便を強いられている地域が増加している状況です。

こうした地域は、道路事情も悪く企業の進出も見込めない極めて将来性の低い地域とみなされ、将来に期待が望めない地域と位置づけられているようです。みやこ町もこうした地域として埋没することのないよう、日々努力を続けているところです。

いずれにいたしましても、こうした地域交通網の整備が地域住民の利便性を高めるだけでなく、企業進出など新たな経済活力の進展により、北九州、京築地域ひいては北九州東部地域全域がさらに発展し大きく変貌をとげることを期待しているところです。

②-1 地域の現状と抱える問題

福岡県みやこ町

○ 現状

ここ数年来、みやこ町での少子高齢化は経験したことのないスピードで進んでいるところです。

65歳以上の高齢者が年を越すごとに増加し、集落そのものの機能が維持できない行政区が増えつつあります。このような地域をどのように対処していけばよいのかが、緊急の課題となっているところです。

本町では、道路事情の問題で企業進出が望めないため、若者は働く場所をもとめて都市圏へでていき、地域を守るのは高齢者のみとますます過疎化が進む状況です。

○ 課題

過疎化対策として求められるのが、大手企業の進出、企業誘致となります。しかし、みやこ町の道路事業は非常に悪く、大型車<sup>へ</sup>輦が離合できない状況にあります。企業を誘致する土地を確保できたとしても、道路整備が不十分であるために却下されるということになると思われます。そのため早急に道路ネットワークを整理し、交通インフラ整備を行い、大手企業の進出により若者が地域で働き地域で生活ができる定住施策または環境整備等が緊急課題であると思います。

②－２ 地域の目指すべき将来像

福岡県みやこ町

本町は平成１８年３月２０日に旧犀川町、豊津町、勝山町が合併してあらたにみやこ町が誕生して２年半を経過したところです。

この合併に伴って一番重要な問題点として本庁から支所へと移動する際の道路のインフラ整備が求められているところです。

みやこ町での生活圏域は北九州方面が主であり、通勤等に１時間以上かかる状況です。現在 国道４９６号線の整備また東九州自動車道の建設が実施されています。しかし、本計画道路が通じる地域からのアクセス道路等の整備が非常に遅れているため、地域の若者が都市圏へ移住することなく、地域から通勤できる道路整備が必要不可欠となっています。

そうすることにより、若者の流出に歯止めをかけることができ、少子化また過疎化の解消もできるものと思われます。

また高齢者の増加に反して高齢者の生活にかかせない公共交通機関の廃止や撤退により不便を強いられている状況です。このことも道路インフラ整備がなされていないことにより施行されたものと思われます。こうした地域交通網の整備が地域住民の利便性を高めるだけでなく、企業進出などあらたな経済活動の進展により大きく変貌をとげることを期待しているところです。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

福岡県みやこ町

| ○重点事項 | ○代表事例 | ○期待する効果や評価等 | ○その他 |
|-------|-------|-------------|------|
|       |       |             |      |